

(7) 利岡小学校

学 校 長 北代 あかね
校内研究代表者 谷本 誠弥

1. 研究主題 「複式授業で学びを深める児童の育成」
～複数担任で取り組む個別最適な学習環境づくり～

2. 主題設定の理由

本校は平成30年度まで複式学級を有する学校として複式授業の授業改善や指導法の工夫等の研究を行ってきた。そして、この年から思考力・判断力・表現力を育てるために言語活動に重点を置いた国語科の授業づくりの研究に転換している。平成31年度には完全複式校となり、以来複式授業のスタンダードを確立するため、学習リーダーを中心とした主体的に学ぶ態度の育成と「とも学び」の充実を目指した。令和2年度からは研究主題を「複式授業で学びを深める児童の育成」とし、以後、複式授業のスタンダードの確立と国語科の授業づくりを研究の柱として授業改善を図ってきた。

今では、全学年において複式スタンダードが身につく、学習メニューボードを見ながら学習リーダーを中心に自分たちで意欲的に学習を進めることができる。学力においては、各種学力調査おおむね全国平均を上回っているが、児童個々が持つ課題は少なくない。その一つが「読みの力」である。学力テストにおいて国語科に課題が見られる要因として、児童の文章を正確に読む力の低下を強く感じるようになった。「読むのが遅い」「読み間違いが多い」「すらすら読んでいるが内容を理解しながら読むことができていない」という課題が顕著となっている。学年が上がるにつれ文章の量・質ともレベルアップするため各教科の不振にもつながっていると思われる。また、語彙が非常に乏しく、言葉の意味を正しく理解できていないことが多い。

そこで、昨年度より今一度基礎基本に立ち返り、多層指導モデルMIMを活用して読みの流暢性を高めること、その先の読解力向上へとつなげる指導として国語科における語彙の習得と意味理解を伴った音読力・朗読力の向上、そして「読むこと」に重点を置いた授業研究を行った。今年度は、語彙の習得を目指した取り組み等「読む力」の更なる向上を目指し、MIMの活用と国語科の研究は継続する。

そして、新たな取組として複数担任制を導入したいと考えている。児童の減少は止まらず、今年度は児童数10名となった。学年によっては一人で学習しなければならない児童もいる。また、児童数とともに教員数も減り、学習の困難な教科や活動内容が制限される学習がある。これらのデメリットを少しでも解消するため、昨年度の全校体育、全校音楽に加えて一つの教室で全校児童を全教員で指導する新しい複式授業の研究を進めたい。学習に向かう十分な姿勢を身につけた利岡小の児童だからできる、既定の枠に捉われない新しい複式授業づくりを目指す。

3. 研究の進め方と方法

児童につけたい力

- ◆学習規律
- ◆基礎・基本の力…（読みの力を中心に）
- ◆思考力、表現力、対話力
- ◆学習リーダーとしての資質

- ◎教材研究を深め、単元や授業でのねらいと付けたい力をはっきりさせる。
- ◎語彙力を高め、正しく読み取る力をつける。
- ◎学校生活全体を通して言語環境を整える。

(1) 読みの流暢性を高める取組

①児童の「読み」の実態を把握する

- ・MIM—PM アセスメント、週2回の日記指導、音読、帰りの会での新聞スピーチ・日直スピーチ

②語彙を高める取組

- ・視写タイム、全校でのコトバタイム、朝の会での5分間ドリル等
- ・その他全校や学級での取組

3・4年	5・6年	全校
<ul style="list-style-type: none">・音読教材の工夫・板書・教具の工夫・意味調べの時間の確保・言葉の広場の活用	<ul style="list-style-type: none">・各単元で意味調べの時間を確保・クラウド上に調べた語彙を記録・帰りの会での新聞記事紹介	<ul style="list-style-type: none">○音読指導・語彙の獲得・文章表記通り正確に読むことを徹底・授業の中で必ず音読の場面を確保・視写・コトバによる語彙の獲得

(2)国語科授業づくり—研究授業の充実を図る—

教材研究・・・2回の事前研

事前研1

- ① 児童の実態と学習指導要領のねらいをもとに、単元目標及び児童に身に付けさせたい力を設定
- ② 教材文を読み込みながら（教材分析）、言語活動を設定し学習計画を作成

事前研2

- ③ 再度の教材文研究
- ④ 複式授業において軽重やずらし等、児童の実態や思考を考えながら学習展開を検討し、具体的に指導案を作り上げていく

研究授業

授業の観点

- ・複式授業における授業構成と支援
- ・授業改善プランに関わって
- ・言語活動を通して見方・考え方を働かせていたか

事後研

- ・ロイロノート・フィグジャムを活用して意見を共有

(3) 複数担任制での取組

- ・全校で学習する時間を計画的に設定→複数の教員で児童を支援する体制を整える
- ・人数によって学習活動が制限される教科を中心に取組を行った。



国語科



音楽科



体育科

異学年での交流ができ、少ない人数ではできなかった活動もできるようになった。この他にも特別活動、総合的な学習の時間などで活動を行った。

4. 今年度の成果と課題

〈成果〉

- ・学力テストの評価とその要因を読みのつまずきにあると捉え、児童の読みの特性、困難さの背景を学校全体で掴み、指導方法を検討することができた。
- ・協働して指導案を作成することを通して、授業の視点がより焦点化された。
- ・複数の教員で児童を支援する体制を整えたことで個への支援が行いやすくなった。

〈課題〉

- ・児童の読みの困難さはそれぞれであり、さらに細かく支援を行うための取組を考える必要がある。
- ・複式を生かした協働的な学びの充実。対話を通して思考を深める授業を考えていく必要がある。